

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもさぼーとセンター きらめき北谷		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	担当制の個別療育(1対1)により、個々の発達段階やペース、ニーズに合わせた活動プログラムの提供ができる。	個々の興味関心に合わせ、提供できる活動を幅広く用意。また個別対応だけでなく小集団(2~4名)での活動の企画や実施を行っている。	個別療育にて丁寧に関わることでできる環境ならではのプログラム内容の検討、工夫を検討していきたい。
2	児童指導員、保育士、理学療法士、言語聴覚士とさまざまな専門職の連携のもと療育の提供ができる。	療育の振り返りを行ないながら、子どもたちが楽しく意欲的に参加、取り組めるよう環境設定や活動の工夫を行っている。	療育内容や子ども個々の理解に関わる会議の場や勉強会の定着を図ってきたい。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスを行っていないため、通所に関しては保護者の皆さまのご理解とご協力を得ている。	送迎に対応できる人員の配置が難しいこと。離れた地域から通所してくれている児童はより難しくなる。	保護者の皆さまのご協力を得ながら、要望に応じて利用日の振替を行ったり、送迎サポートの方法を(地域資源の活用など)、通所しやすい工夫の検討を行っていく。
2	利用時間について、幼稚園や保育園への通園時間と重なることで利用の難しさがある。	多機能型事業所として、児童発達支援の提供時間と放課後等デイサービスの提供時間を午前と午後で分けている。人員の確保や活動スペースの確保の難しさがある。	今後どちらのサービスも午後の時間も利用ができるような形態を検討、工夫していく必要がある。
3			